

1. 申請者情報

都道府県名	愛知県	市区町村等名	豊田市	地方公共団体コード	23211
-------	-----	--------	-----	-----------	-------

2. 交付対象事業の名称等

単独／広域リージョン	交付対象事業の名称						
単独	豊田市足助地区滞在型観光推進事業						
主となる事業分野（入力必須）	事業分野（大項目）	地場産業支援関連事業	事業分野（詳細）	地場産業の付加価値向上や販路開拓等を支援し、地域経済の維持及び拡大を目指す取組及びこれに関連する周辺的な取組	事業分野	○	
ソフト事業実施期間	2026	年	4	月	1	日	から 2029 年 3 月 31 日 まで
拠点整備事業実施期間	2026	年	4	月	1	日	から 2029 年 3 月 31 日 まで
インフラ整備事業実施期間		年		月		日	から 年 月 日 まで

入力必須
(実施事業のみ)

No.	都道府県名	市区町村等名	地方公共団体コード	【ソフト事業】 対象事業経費	【ソフト事業】 申請額(左記の1/2)	【拠点整備事業】 対象事業経費	【拠点整備事業】 申請額(左記の1/2)	【インフラ整備事業】 対象事業経費	【インフラ整備事業】 申請額
1	愛知県	豊田市	23211	13,499千円	6,749千円	80,553千円	40,276千円		
計				13,499千円	6,749千円	80,553千円	40,276千円	0千円	0千円

3. 交付対象事業の背景・概要

A. 地方創生として目指す将来像(交付対象事業の背景)

【背景(本市及び足助地区の現状)】 本市はものづくり産業の拠点として発展し「クルマのまち」として世界に誇ることのできる独自性・優位性を持つ都市である一方で、昭和と平成の市町村合併を経て、市域が約918㎢と愛知県で最も広くなり、その市域の約7割を森林が占める、都市と山村が共存するまちとなった。2022年1月には「豊田市山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生に関する条例」を制定し、山村地域の豊かな自然のほか、自然と共生する暮らしの中から生まれた歴史や文化など、様々な魅力や価値を市全体で広く共有し、次の世代につないでいくことで、持続的な山村地域づくりと地域資源を活かした活力の向上を目指している。 本申請の対象地域である「足助地区」は、豊田市の山村地域の一つで旧足助町だった地区である。本地区は古くから三河湾と信州を結ぶ交通の要衝として栄え、商業や行政の中心地としての役割を担ってきた経緯から、行政機関や金融機関、基幹病院、高等学校、小中学校、スーパーマーケット、商店街などが、足助支所を中心として概半半径2km以内に集積しており、他の山村地区と比較して生活環境は充実している。その上、豊田市の中心市街地まで車で約30分、名古屋駅までは約60分と通勤可能な立地的にも優位な位置にある。しかしながら、昭和25年を頂点とした後は減少を続け、過疎化の進行により人口減少が急激に進み、この5年間でも、人口等状況は以下のとおりである。特に、子どもを含めた若い世代の減少が顕著である。 <足助地区の人口> 2020年7,409人<734人>、2025年6,556人<542人>、2050年(未来推計)3,091人<167人> <>は、15才未満の子どもの数 こうした人口減少は地域内の商工業の衰退に加え、地域の暮らしに関わる環境の悪化が進むことで、更なる人口減少につながる事が懸念され、今後、加速的に進行していくことが想定される。 <足助地区の事業所数> 2009年455事業所、2021年372事業所 また、本地区には、東海地区を代表する紅葉の名所「香嵐渓(こうらんけい)」をはじめ高いポテンシャルを持つ観光資源があり、戦後以降、観光産業が地域の経済を支える主要産業であった。しかし、高度経済成長期以降の自動車産業の発展、事業主の高齢化・後継者不在、ライフスタイルの変化など、地域観光を取り巻く環境の変化を背景に、香嵐渓の年間観光入込客数は、平成18年から令和8年までの20年間で約130万人から約85万人と約2／3まで減少しており、相まって年々地域内事業者数は減少している。また、愛知県初の重要伝統的建造物群保存地区に選定された歴史的な町並みがあるが、これまでは暮らしのある町並みとして文化の街帯を中心に進めてきた。しかしながら、人口減少や空き家・空き店舗の増加が急激に進み、町並みで空き家が除却される案件が出現する中、足助の町並みを観光資源とらえて地域コミュニティを維持・活性化を図る取組を地域と開始したところである。 以上のように、比較的生活利便性が高く、地域資源に恵まれているにもかかわらず、人口減少や地域経済の衰退が進行している要因としては、社会環境の変化に応じて、観光産業や生活関連産業など地域に根差した事業が更新されてこなかったために、居住地あるいは観光地として選ばれる魅力が低下したことがあげられる。このまま人口減少や地域経済の衰退が進めば、足助地区の中心に集積している行政機能や生活機能の維持が困難になり山村地域の拠点としての機能を失いかねない。 【目指す将来像】 「第9次豊田市総合計画」(2025年度－2029年度)において、本市の将来都市構造として、足助地区の中心地は暮らしの機能や居住を維持・誘導する生活拠点及び山村地域全体の広域的な暮らし機能を有する広域生活拠点(以下「生活拠点」という。)として、都市と山村の共生の取組や観光交流等の山村地域の振興に必要な機能の誘導を図る拠点として位置付けている。 それを踏まえ、都市と山村地域が近接・共存する特性や山村地域の歴史・文化・自然などの魅力や価値を生かし、滞在型・通年型の観光振興による国内外や地域内外の新たな人や経済の流れ、循環を創出することで、地域の稼ぐ力強化と消費拡大による地方創生の実現を目指す。さらには、足助地区が本市において都市と山村地域の中間に位置することから、山村地域への人口として、山村地域全体の人と経済の流れや循環を生み出す原動力としての役割を担うことで、その効果を市全体に広く波及させていく。 これらにより、足助地区や山村地域の暮らし機能の維持が図られ、多様な世代から選ばれる地域となり、滞在型の長い・深い関わりの中で交流人口から関係人口・定住人口が創出され、山村の地域コミュニティが維持できている状況を実現する。
B. 地方創生の実現における構造的な課題

【課題①】ピーク型及び通過型観光による地域不活性 東海地区を代表する観光地「香嵐渓」は、紅葉の時期である11月の香嵐渓もみじまつり期間中には55万人/月の観光客が来訪し、オーバーツーリズムとなっているが、11月以外の時期の誘客が思うように進まず13万人と少数になっており、極端なピーク型の観光で民間事業者の商売の年間を通じた運営が困難な状況がある。また、国道153線を通り足助地区を通過して近隣観光地に向かう車は年間68万人存在しているにも関わらず、立寄り観光に向けた取組が十分ではなく稼ぐ機会を逸失している。地区内には近年まで旅館が複数存在したが、通過型観光による地域消費の縮小や運営者の高齢化等による魅力の減退により、廃業や休業となる施設が増加して、通過型観光に拍車がかかっている。一方で、新たにオープンした古民家ゲストハウスなど一部の民間事業者では、山村の手仕事等のコト体験の提供により、通年を通じた外国人や都市部若者の利用があり、滞在型観光の需要があることは確認される。
【課題②】社会的な人口減少・少子高齢化を背景とした担い手の不在 背景にも記載したとおり社会的な人口減少が進行する中、担い手の候補としては、第一に地域の既存の事業者が想定されるが、地区内の事業者の多くは高齢化しており、後継者もおらず、他社への事業継承も行われず廃業・休業となる事業者が増加している。また、他の担い手候補としては、地域外からの新たな事業者の参入が想定されるが、山村地域の足助地区が選ばれるためには、地域資源の磨き上げのほか、積極的な支援体制の構築と発信等の働きかけが必要であるが、外に頼らずともなんとかやってきたことから、これまで十分に取組まれてこなかった。
【課題③】観光振興に対する公民連携の不足 平成17年度の市町村合併以前は、旧足助町により観光振興を山村まちづくりの手法と捉え、観光資源等に対して積極的な投資が行われたが、合併後は、市域が広がったこともあり歴史的な町並みや香嵐渓への観光を目的とした積極投資はされず、観光需要は減退し、民間投資も図られない状況が生まれている。現在の状況では自然発生的な民間投資や継続的な発展は期待できず、エリア再生を図る上で、将来的な自立を見据えながらも一定の公の投資による先導的な取組が必要である。特に、生活拠点には観光に資する公有財産が多数存在するため、施設の磨き上げに加え、その活用も公民連携等戦略的である必要がある。
【課題④】地域資源の活用の発展途上 地域資源として、豊かな自然や多様な歴史・文化のほか、人口減少や地域経済の衰退に伴い増加が見込まれる空き家・空き店舗等の遊休不動産がある。とりわけ、重要伝統的建造物群保存地区においては、魅力的な空き家・空き店舗が数多く存在するが、所有者の空き家活用意識の低さや煩わしさ等により市場に流通せず、活用が進んでいない。これらの地域資源の活用を進めるには、地域住民や関係者をはじめ様々なステークホルダーとの調整、物件所有者の理解等が必要となり個人の取組では容易ではないため、まちぐるみの推進体制や仕組みづくりが必要であるが、これまでも地域資源の活用に取り組んできたが、踏み込んだ取組に発展させることができなかった。

C. 交付対象事業の概要
(交付対象事業がどのように構造的な課題の解決に寄与するのか分かるように記載すること。)

地区観光に資する地域資源を最大限に活用した滞在型観光を推進し、課題解決を図り、目指す姿を実現する。

【地域資源「足助の町並み」】
<課題①②④の解決に寄与>
これまででは、地域資源の活用の踏み込んだ取組ができてこなかったが、令和7年6月、本市と、足助地区のまちづくりを推進する地域団体の足助まちづくり推進協議会と、古い町並みで古民家を活用したまちづくりに取り組む民間事業者と連携協定「足助の町並みを活用した地域活性化の推進に関する連携協定」を締結して地域資源を活かしたまちづくりの取組を開始した。
本取組では、地域等と共働により、滞在型観光による地域活性化に向け、地区内の事業者の発掘と地区外からの事業者の参入を促すとともに、実際に事業を見える化することで、地域住民や物件所有者、事業者、関係団体などのエリア再生に対する理解や意欲の醸成を図る。また、既存ストックの活用や事業者と物件所有者あるいは地域との調整、事業化支援などの仕組みの構築や体制づくりを行うことで加速度的に推進する。この取組を見える化するリーディングプロジェクトとして、公有資産の旧田口家住宅を高付加価値宿泊施設として修繕・活用する。さらに、民間事業者に賃貸借により運営をさせるスキームを採用し、旧田口家住宅からの波及により他の民間空き家等の活用を推進する。また、滞在型観光を推進するにあたり、足助の町並みが未だ観光地として魅力に乏しいことから、重要伝統的建造物群保存地区としての歴史文化を活かした魅力を創出するための整備(看板、遊歩道ライトアップ)を行う。
ソフト事業としては、足助の町並みを活用した地域によるイベントとして「中馬のおひなさん」や「たんころりんの夕涼み」等があるが、地域住民の高齢化等により継続が困難になりつつある。そのため、地域の事業者等と検討を行い、持続可能な観光を目指して既存コンテンツの改良と新たなコンテンツを創出するとともに、地域観光の担い手を創出・育成を図る。

【地域資源「香嵐渓」】
<課題①③の解決に寄与>
滞在型・通年型の観光振興を目指し、秋以外の魅力を創出するため、基礎的な快適性を高める山道遊歩道整備やライトアップのLED化等電気設備整備のほか、滞在性を高めるベンチ整備、インバウンドに対応するためのトイレの洋式化、山村の文化の発信による魅力向上のための茅葺屋根の葺き替えといった施設整備を行う。また、茅葺屋根の葺き替えに合わせて茅文化体験を実施する。
また、香嵐渓活性化計画内のエリア整備について、新たな魅力を創出すべく、香嵐渓の自然と川を活かしたアクティビティ施設など、持続的な観光地を目指して、開発手法や運営手法、運営体制等のスキームを具体的に調査とトライアルを実施して、公共だけに限らない民間を含めた観光投資の形を実現する。

D. 事業分野(大項目)のいずれかを選択した理由 (地域未来戦略における3分類(戦略産業クラスター関連事業／地域産業クラスター関連事業／地場産業支援関連事業)との関連性)

足助地区は物流の要所として繁栄した歴史により、足助の町並みと香嵐渓を中心に観光振興に取り組み、観光産業で発展してきた。現在は人口減少や観光需要の減退による地域不活性が進行しているが、改めて地域資源の整備や地域資源を活かした公民連携の取組により、足助の町並みや香嵐渓の価値向上を図り、中京圏域からの人々を呼び込んで地域経済の維持・拡大を目指すことは、足助地区の地場産業の拡大に寄与する。また、本交付金以外にも、市により創業支援補助金の創設や、足助の町並みへの商業誘致による償却資産税分の補填などを予定しており、本交付金の事業と合わせて、総合的に地場産業の更なる価値向上・エリア再生による足助地区、発展的に本市の山村全体の地域経済の拡大を図る。

4. 優先採択テーマへの該当

優先採択テーマ	申請なし
---------	------

5. 他政策・施策等との連携状況

<中心市街地活性化に係る事業>

概要	
----	--

<特区制度を活用した、又は活用しようとする事業>

特例措置活用		提案		事前相談	
特例措置・提案・事前相談名					
特区指定・認定		特区種別①		特区種別②	
				特区種別③	
概要					

<対日直接投資の誘致を支援する取組につながる事業>

概要	
----	--

<地域のデジタル人材への教育のための事業>

概要	
----	--

<スタートアップ支援に係る取組>

概要	
----	--

連携する取組			所管省庁への 事前相談	
主務大臣による認定を受けた政策・施策間連携に関する事業 計画の名称				
地域未来投資促進 法の「基本計画」に 明記される事業のう ち、個別事業者への 支援が含まれる場合 のみ記載	基本計画に適合するとして承認された 地域経済牽引事業計画の名称			
	主務大臣の承認を得られた 連携支援計画の名称			
地域未来投資促進法の「基本計画」に明記される事業のうち、 設備投資等の支援を行う場合のみ経済波及効果を記載				

(1)	ソフト事業及び拠点整備事業において、他の国庫補助金等の対象となる部分や特別交付税等の他の財政上の支援を受けている経費を除外しているか。	○
(2)	ソフト事業及び拠点整備事業において、従前から一般財源により実施されている事業経費や経常的な経費等の財源振替、地方公共団体が実施する福祉事業等、本来一般財源で措置すべき経費を除外しているか。	○
(3)	ソフト事業及び拠点整備事業において、提案、企画・立案に関するコンサルティング経費を除外しているか。	○

[illegible]

9. 自立性

取組内容 (事業を進めていく中で、事業推進主体が自立していくことにより、将来的に本交付金に頼らずに、事業として継続していくことが可能となる事業であること。)								
足助の町並みと香嵐溪の活用については、民間事業者による財源確保を想定している。田口家住宅の共用開始(令和11年度)と並行して、新設するまちづくり会社を中心とした足助の町並みでの民間投資や金融機関と連携したスキームを確立すると共に、香嵐溪施設の整備完了及び新エリア創出による公民連携の運営により、香嵐溪もみじまつりの時期以外の年間を通した稼ぐ力を発揮して歳出削減及び自立的運営を可能とする。 また、継続的に企業版ふるさと納税を活用すると共に、香嵐溪もみじまつり等での願掛けろうそく等の販売や、民間事業者や愛知県立足助高等学校と連携した地域資源を活用した商品開発(もみじの間伐材を活用した燗製おさつチップスに続く商品)及び民間事業者から寄付によるもみじ寄付金の積極的な積み増しに取り組んでいく。								
自主財源の種類		自主財源の内容						
【A】	指定管理施設利用料収入	本事業の整備により観光来訪者数を増加させ、公営駐車場の利用料収入を拡大して、指定管理料を圧縮する。						
【B】	指定間者自主事業収入	新エリア整備に合わせイベント等を実施して、指定管理者の自主事業収入を拡大する。						
【C】	もみじ寄付金	もみじ寄付金への寄付(民間事業者、地域による香嵐溪の売上、中高生活動の寄付等)						
【D】	民間事業者資金	旧田口家住宅は民間事業者に賃貸借契約により民間事業者の営利事業により運営する。また、そこで得た利益は町並みに再投資される。						
【E】	一般財源(市費)	事業当初は市の負担とするが、徐々に民間財源へと移行する。						
各年度における 自主財源見込額		事業開始前 (現時点)	2026年度 (1年目)	2027年度 (2年目)	2028年度 (3年目)	2029年度 (4年目)	2030年度 (5年目)	2031年度 (6年目)
【A】		70,988千円	71,238千円	71,488千円	71,738千円	72,088千円		
【B】		266,662千円	0千円	0千円	268,162千円	269,662千円		
【C】		2,026千円	2,030千円	2,040千円	2,050千円	2,060千円		
【D】		0千円	0千円	0千円	3,000千円	3,000千円		
【E】		0千円	47,026千円	84,618千円	91,665千円	0千円		
合計		339,676千円	120,294千円	158,146千円	436,615千円	346,810千円	0千円	0千円
交付対象事業経費			94,052千円	169,236千円	183,331千円	0千円	0千円	
うちソフト事業費			13,499千円	13,000千円	13,000千円	0千円	0千円	
うち拠点整備事業費			80,553千円	156,236千円	170,331千円	0千円	0千円	
総事業費		339,676千円	167,320千円	231,674千円	528,281千円	346,810千円	0千円	0千円

10. 地域の多様な主体の参画

地方公共団体名								
愛知県豊田市	分類	産	産	学	住民			
	主体名	民間事業者	指定管理者	愛知県立足助高等学校	自治会			
	主な役割、意見及び改善方策への反映	【役割】民間事業者は民間物件への投資により足助の町並みのエリア再生及び公民連携により香嵐溪の活性化に取り組む。 【意見・改善方法】地域の足助の町並みの活用や香嵐溪の在り方を含むまちづくりに関して意見交換(サウンディング事調査含む)を行い取組に反映させる。	【役割】指定管理者は、香嵐溪施設の運営を行い、集客促進及び地域課題の解決、地域連携に取り組む。民間事業者は足助の町並みのエリア再生に取り組む。 【意見・改善方法】指定管理者者は、市と中長期経営計画を策定し、実績を確認しながら改善点について協議し事業に反映する。	【役割】新設される観光科を活かして、地域の担い手づくりに取り組む。 【意見・改善方法】継続的に魅力化会議に出席して地域連携を支援するとともに、山村ツアーなどを共働で実施する。	【役割】空き家対策等の地域課題の解決や地域住民の意見集約。 【意見・改善方法】地域の足助の町並みの活用や香嵐溪の在り方を含むまちづくりに関して意見交換を行い取組に反映させる。			

11. 交付対象事業の効果検証及び事業内容の見直しの方法、時期及び体制

地方公共団体名	外部組織による検証						
	検証時期			検証方法		外部組織の参画者	
愛知県豊田市	毎年度	6	月	PDCALビューにより実績と目標の差を分析し、アプローチの有効性や目標設定の適正を評価する。		足助まちづくり推進協議会	ホームページ

12. 地方版総合戦略の策定状況

地方公共団体名	地方版総合戦略の計画期間・基本目標							
	現行の地方版総合戦略				次期地方版総合戦略			
愛知県豊田市	2025	年	4	月	1	日	から	2030
	豊田市まち・ひと・しごと創生総合戦略2030							
基本目標①しごとづくり ②人の流れ・にぎわい・地域への愛着づくり				年	3	月	31	日

13. 地域再生計画の名称等

地方公共団体名	地域再生計画の名称							
愛知県豊田市	第2期豊田市まち・ひと・しごと創生推進交付金計画							
	地域再生計画の区域		愛知県豊田市の全域					
	計画期間		地域再生計画の認定の日	から	2030	年	3	月

(別紙1-1) ソフト事業経費内訳

2026.1.27

	2026年度 (1年目)	2027年度 (2年目)	2028年度 (3年目)	2029年度 (4年目)	2030年度 (5年目)	合計
交付対象事業経費【①】	13,499千円	13,000千円	13,000千円	0千円	0千円	39,499千円
交付対象事業における ソフト事業経費【②】	13,499千円	13,000千円	13,000千円	0千円	0千円	39,499千円
交付対象事業における 施設整備・事業設備・備品 経費【③】	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
交付対象事業における施設 整備・事業設備・備品経 費比率【③/①】	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

<2026年度(1年目)>				ソフト事業1年目を実施する全事業の中で、最も早い支出負担行為日(契約日、交付決定日等)				2026	年	5	月	1	日
全事業期間における本年の位置付け				滞在型観光を推進する観光地としての磨き上げ、担い手や関係人口の創出に向けた取組のスタートアップの年									
事業開始時期			事業終了時期		予算計上時期①		予算種別①	予算計上時期②		予算種別②	予算計上時期③		予算種別③
2026 年 5 月			2027 年 3 月		2026 年 4 月		当初	年 月			年 月		
交付対象事業経費				13,499千円									
交付対象事業におけるソフト事業経費								要素事業数		3	計	13,499千円	
1	観光コンテンツ改良・造成事業							関連するKPI		①、③、④		3,000千円	
	足助の町並みや香嵐溪の整備にありたり、中馬のおひなさん等の既存の観光コンテンツの改良や新たな観光コンテンツの造成を行い、観光人材の育成を図る。 ・観光コンテンツ改良・造成事業(委託費)3,000千円 (内訳:委託事業者人件費1,227千円、講師料45千円、イベント費1,090千円(内訳:デザイン費450千円、撮影費90千円、印刷費90千円、広報182千円、イベント運営費182千円、諸経費96千円)、諸経費90千円、営業管理費275千円、消費税273千円)												
2	茅文化体験事業							関連するKPI		①、②		499千円	
	香嵐溪内の三州足助屋敷の茅葺き葺き替えに合わせ、山村の茅文化を発信する体験事業によりインバウンド等の取り込みを図る。 ・茅文化コト体験事業(委託費)499千円 (内訳:委託事業者人件費200千円、講師料140千円、デザイン費20千円、諸経費93千円、消費税46千円)												
3	新エリア整備公民連携トライアル事業							関連するKPI		①、②		10,000千円	
	香嵐溪活性化計画における新エリア整備について、計画を具体化するための整備運営スキームについて調査を行う。 ・香嵐溪公民連携調査事業(委託費) 10,000千円 (内訳:委託人件費7,190千円、諸経費460千円、一般管理費1,440千円、消費税910千円)												
20													
交付対象事業における施設整備・事業設備・備品経費								要素事業数		0	計	0千円	

<2027年度(2年目)> ※2年目以降の交付額が担保されるわけではありません。

全事業期間における本年の位置付け		滞在型観光を推進する観光地としての磨き上げ、担い手や関係人口の創出に向けた取組の2年目として中間評価と最終年度への調整を行う年。						
事業開始時期		事業終了時期	予算計上時期①	予算種別①	予算計上時期②	予算種別②	予算計上時期③	予算種別③
2027 年 5 月		2028 年 3 月	2027 年 4 月	当初	年 月		年 月	
交付対象事業経費								13,000千円
交付対象事業におけるソフト事業経費					要素事業数	2	計	13,000千円
1	観光コンテンツ改良・造成事業				関連するKPI	①、③、④		3,000千円
	足助の町並みや香嵐溪の整備にありたり、中馬のおひなさん等の既存の観光コンテンツの改良や新たな観光コンテンツの造成を行い、観光人材の育成を図る。初年度のフォローアップを行う。 ・観光コンテンツ改良・造成事業(委託費)3,000千円 (内訳:委託事業者人件費1,227千円、講師料45千円、イベント費1,090千円(内訳:デザイン費450千円、撮影費90千円、印刷費90千円、広報182千円、イベント運営費182千円、諸経費96千円)、諸経費90千円、営業管理費275千円、消費税273千円)							
2	新エリア整備調査トライアル事業				関連するKPI	①、②		10,000千円
	香嵐溪活性化計画におけるエリア整備について、計画を具体化するための整備運営スキームについてトライアルを行う。 ・香嵐溪公民連携トライアル事業(委託費) 10,000千円 (内訳:委託人件費7,190千円、諸経費460千円、一般管理費1,440千円、消費税910千円)							
交付対象事業における施設整備・事業設備・備品経費					要素事業数	0	計	0千円

<2028年度(3年目)> ※2年目以降の交付額が担保されるわけではありません。

全事業期間における本年の位置付け		滞在型観光を推進する観光地としての磨き上げ、担い手や関係人口の創出に向けた取組の評価検証及び具体化・自立に向けた調整・検討を行う年。							
事業開始時期		事業終了時期		予算計上時期①	予算種別①	予算計上時期②	予算種別②	予算計上時期③	予算種別③
2028 年 5 月		2029 年 3 月		2028 年 4 月		年 月		年 月	
交付対象事業経費		13,000千円							
交付対象事業におけるソフト事業経費						要素事業数	2	計	13,000千円
1	観光コンテンツ改良・造成事業					関連するKPI	①、③、④		3,000千円
	足助の町並みや香嵐溪の整備にありたり、中馬のおひなさん等の既存の観光コンテンツの改良や新たな観光コンテンツの造成を行い、観光人材の育成を図る。前年度までのフォローアップを行う。 ・観光コンテンツ改良・造成事業(委託費)3,000千円 (内訳:委託事業者人件費1,227千円、講師料45千円、イベント費1,090千円(内訳:デザイン費450千円、撮影費90千円、印刷費90千円、広報182千円、イベント運営費182千円、諸経費96千円)、諸経費90千円、営業管理費275千円、消費税273千円)								
2	新エリア整備調査トライアル事業					関連するKPI	①、②		10,000千円
	香嵐溪活性化計画におけるエリア整備について、計画を具体化するための整備運営スキームについてトライアルを行う。 ・香嵐溪公民連携トライアル事業(委託費) 10,000千円 (内訳:委託人件費7,190千円、諸経費460千円、一般管理費1,440千円、消費税910千円)								
交付対象事業における施設整備・事業設備・備品経費						要素事業数	0	計	0千円

1. 交付対象施設の概要

(1) 施設の名称及び場所

施設の名称	足助生活拠点地区(町並み・香嵐溪)
施設の場所	愛知県豊田市足助町

(2-1) 施設の所有者

種類	地方公共団体	名称	豊田市
出資比率	100.0%		

(2-2) 施設の整備主体

整備主体	豊田市
------	-----

(2-3) 民間事業者等(公共的団体等を除く)が所有主体の場合 ※該当がある場合

該当	①	民間事業者等(公共的団体等を除く)が所有する施設等を地方公共団体や公共的団体等が整備する場合			
	②	民間事業者等(公共的団体等を除く)が所有し、かつ整備する施設等について、地方公共団体が整備費を補助する場合			
要件	地方自治法に基づく「公の施設」として位置付けられるか			「公の施設」としての 位置付け及び協定等 の締結の時期 (例)●年●月頃	
	(「公の施設」として位置付けられない場合) 協定等の締結により中長期的・安定的な施設運営を担保されるか				
	「公の施設」として位置付けられない理由				
	協定等の内容				

2. 事業計画期間及び施設の供用開始年度

施設整備等の事業計画期間 及び施設の供用開始年度	①事業計画期間(全体) ※その他の補助金等を用いて整備する部分も含めた全体期間								②事業計画期間(交付対象) ※拠点整備タイプの対象事業の実施期間								施設の 供用開始年度	
	2026	年	4	月	～	2029	年	3	月	2026	年	4	月	～	2029	年	3	月
「①全体」と「②交付対象」 の期間が異なる理由 ※①と②の終了時期が異なる 場合のみ記載																		

3. 経費内訳

	2026年度 (1年目)	2027年度 (2年目)	2028年度 (3年目)	2029年度 (4年目)	2030年度 (5年目)	合計
交付対象事業経費【①】	80,553千円	156,236千円	170,331千円	0千円	0千円	407,120千円
交付対象事業における 建築物整備経費【②】	52,589千円	0千円	0千円	0千円	0千円	52,589千円
交付対象事業における 設備整備・用地造成等 経費【③】	27,964千円	156,236千円	170,331千円	0千円	0千円	354,531千円
交付対象事業における 備品整備経費【④】	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
交付対象事業における 効果促進事業(ソフト事業) 経費【⑤】	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
交付対象事業における 備品整備経費比率 【④/①】	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体事業費	80,553千円	156,236千円	170,331千円	0千円	0千円	407,120千円
(2-3)⑧に該当する 場合の全体事業費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
(2-3)⑧に該当する 場合の交付対象事業費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円

全事業期間における本年の位置付け		3年の整備計画における初年度として設計に着手(茅葺屋根については設計不要のため整備着手)									
事業開始時期		事業終了時期		予算計上時期①	予算種別①	予算計上時期②		予算種別②	予算計上時期③		予算種別③
2026 年 4 月		2027 年 3 月		2026 年 4 月	当初	年 月			年 月		
交付対象事業経費		80,553千円									
建築物整備経費	52,589千円		設備整備・用地造成等経費	27,964千円		備品経費		0千円		効果促進事業(ソフト事業)経費	0千円
建築物整備の内容										要素事業数	2
区分	整備内容の説明			金額(千円)		経費内訳					
				全体	対象						
模様替	【施設名称】 旧田口家住宅 【整備内容】 旧田口家住宅を修繕・改修して高付加価値な宿泊施設及び交流施設として町並み観光の拠点施設とする。			13,750	13,750	【建築物本体工事(不可分設備工事含む)】13,750千円 (うち、交付対象事業経費 13,750千円/内訳: 豊田市13,750千円) ・基本設計費 13,750千円(うち、交付対象事業経費 13,750千円) 【合計】44,900千円 (うち、交付対象事業経費 13,750千円/内訳: 豊田市13,750千円)					
						関連するKPI		①、③、⑤			
						(2-3)Bに該当する間接補助の場合は以下も記載 ※その他の補助金等を除いた金額					
						全体事業費					
						交付対象事業費					
模様替	【施設名称】 三州足助屋敷(香嵐溪施設) 【整備内容】 日本の山村の文化を伝える三州足助屋敷の入口である長屋門(茅葺)について、茅文化発信事業を組み合わせた葺き替えを実施し日本文化のコト体験を発信する拠点施設にする。			38,839	38,839	【建築物本体工事】38,839千円 (うち、交付対象事業経費 38,839千円/内訳: 豊田市 38,839千円) ・葺き替え工事費 38,839千円(うち、交付対象事業経費 38,839千円) 【合計】 38,839千円 (うち、交付対象事業経費 38,839千円/内訳: 豊田市 38,839千円)					
						関連するKPI		①、②			
						(2-3)Bに該当する間接補助の場合は以下も記載 ※その他の補助金等を除いた金額					
						全体事業費					
						交付対象事業費					
小計				52,589	52,589						
設備整備・用地造成等の内容										要素事業数	1
区分	整備内容の説明			金額(千円)		経費内訳					
				全体	対象						
設備整備	【設備等名称】 香嵐溪施設 【整備内容】 滞在性を向上させるため、香嵐溪施設内の香嵐溪の山道遊歩道の整備に向けた設計を行う。			27,964	27,964	【設備整備工事】27,964千円 (うち、交付対象事業経費 27,964千円/内訳: 豊田市27,964千円) ・山道遊歩道整備設計費 27,964千円(うち、交付対象事業経費 27,964千円) 【合計】27,964千円 (うち、交付対象事業経費27,964千円/内訳: 豊田市27,964千円)					
						関連するKPI		①、②			
						(2-3)Bに該当する間接補助の場合は以下も記載 ※その他の補助金等を除いた金額					
						全体事業費					
						交付対象事業費					
小計				27,964	27,964						

備品整備の内容			要素事業数	0
備品整備の説明	金額(千円)		経費内訳	
	全体	対象		
小計	0	0		
効果促進事業(ソフト事業)の内容			要素事業数	0
効果促進事業(ソフト事業)の説明	金額(千円)		経費内訳	
	全体	対象		
小計	0	0		

<2027年度(2年目)> ※2年目以降の交付額が担保されるわけではありません。

全事業期間における本年の位置付け				3年の整備計画における2年度として整備と設計が同時並行で進める												
事業開始時期				事業終了時期		予算計上時期①		予算種別①	予算計上時期②		予算種別②	予算計上時期③		予算種別③		
2027 年 4 月				2028 年 3 月		2027 年 4 月		当初	年 月			年 月				
交付対象事業経費				156,236千円												
建築物整備経費		0千円		設備整備・用地造成等経費		156,236千円		備品経費		0千円		効果促進事業(ソフト事業)経費		0千円		
建築物整備の内容												要素事業数		0		
区分	整備内容の説明					金額(千円)		経費内訳								
						全体	対象									
小計						0		0								
設備整備・用地造成等の内容												要素事業数		2		
区分	整備内容の説明					金額(千円)		経費内訳								
						全体	対象									
設備整備	【設備等名称】 香嵐溪施設 【整備内容】 香嵐溪の魅力向上及び滞在性向上を図るため、飯盛山ライトアップのLED化等電気設備整備、ベンチ整備を行う。 香嵐溪の滞在性向上のため、ベンチ及び山道遊歩道整備を行う。 インバウンド需要に対応するため、香嵐溪施設内の公衆トイレの一部について、洋式化を行う。					152,236	152,236	【設備整備工事】 152,236千円 (うち、交付対象事業経費 152,236千円/内訳: 豊田市152,236千円) ・ライトアップLED化等電気設備設計費 19,480千円(うち、交付対象事業経費 19,480千円) ・ベンチ整備費 9,963千円(うち、交付対象事業経費 9,963千円) ・遊歩道山道整備工事費 117,993千円(うち、交付対象事業経費 117,993千円) ・公衆トイレ洋式化(3基)整備 4,800千円(うち、交付対象事業経費 4,800千円)								
								関連するKPI		①、②						
								(2-3)Bに該当する間接補助の場合は以下も記載 ※その他の補助金等を除いた金額								
								全体事業費								
								交付対象事業費								
設備整備	【設備等名称】 足助の町並み 【整備内容】 回遊性向上を図るため、伝統的建造物の案内看板を設置する。					4,000	4,000	【設備整備工事】 4,000千円 (うち、交付対象事業経費 4,000千円/内訳: 豊田市 4,000千円) ・町並み案内看板(60基)設置費 4,000千円(うち、交付対象事業経費 4,000千円) 【合計】 4,000千円 (うち、交付対象事業経費 4,000千円/内訳: 豊田市 4,000千円)								
								関連するKPI		①、③						
								(2-3)Bに該当する間接補助の場合は以下も記載 ※その他の補助金等を除いた金額								
								全体事業費								
								交付対象事業費								
小計						156,236		156,236								
備品の内容												要素事業数		0		
備品整備の説明						金額(千円)		経費内訳								
						全体	対象									
小計						0		0								
効果促進事業(ソフト事業)の内容												要素事業数		0		
効果促進事業(ソフト事業)の説明						金額(千円)		経費内訳								
						全体	対象									
小計						0		0								

全事業期間における本年の位置付け		3年の整備計画における3年度として整備の完了										
事業開始時期		事業終了時期		予算計上時期①		予算種別①	予算計上時期②		予算種別②	予算計上時期③		予算種別③
2028 年 4 月		2029 年 3 月		2028 年 4 月		当初	年 月			年 月		
交付対象事業経費		170,331千円										
建築物整備経費	0千円	設備整備・用地造成等経費		170,331千円		備品経費		0千円		効果促進事業(ソフト事業)経費		0千円
建築物整備の内容										要素事業数		0
区分	整備内容の説明			金額(千円)		経費内訳						
				全体	対象							
小計				0	0							
設備整備・用地造成等の内容										要素事業数		2
区分	整備内容の説明			金額(千円)		経費内訳						
				全体	対象							
設備整備	【設備等名称】 香嵐溪施設 【整備内容】 香嵐溪の魅力向上を図るため、飯盛山ライトアップLED化等電気設備整備を行う。			162,331	162,331	【設備整備工事】 162,331千円 (うち、交付対象事業経費 162,331千円/内訳: 豊田市162,331千円) ・ライトアップLED化整備費 135,300千円(うち、交付対象事業経費135,300 千円) ・外灯防犯灯整備費 5,926千円(うち、交付対象事業経費 5,926千円) ・放送設備整備費 15,992千円(うち、交付対象事業経費 15,992千円) ・配線工事費 5,113千円(うち、交付対象事業経費 5,113千円) 【合計】 162,331千円 (うち、交付対象事業経費 162,331千円/内訳: 豊田市162,331千円)						
						関連するKPI		①、②				
						(2-3)Bに該当する間接補助の場合は以下も記載 ※その他の補助金等を除いた金額						
						全体事業費						
						交付対象事業費						
設備整備	【設備等名称】 足助の町並み 【整備内容】 足助の町並みの回遊性向上のため、遊歩道にLED足元ライトを設置する。			8,000	8,000	【設備整備工事】 8,000千円 (うち、交付対象事業経費 8,000千円/内訳: 豊田市 8,000千円) ・町並み河川遊歩道ライトアップ整備(100基)費 8,000千円(うち、交付対象事業経費 8,000千円) 【合計】 8,000千円 (うち、交付対象事業経費 8,000千円/内訳: 豊田市 8,000千円)						
						関連するKPI		①、③				
						(2-3)Bに該当する間接補助の場合は以下も記載 ※その他の補助金等を除いた金額						
						全体事業費						
						交付対象事業費						
小計				170,331	170,331							
備品の内容										要素事業数		0
備品整備の説明			金額(千円)		経費内訳							
			全体	対象								
小計			0	0								
効果促進事業(ソフト事業)の内容										要素事業数		0
効果促進事業(ソフト事業)の説明			金額(千円)		経費内訳							
			全体	対象								
小計			0	0								